令和７年度 中堅教諭等資質向上研修（必修 1－1）

# 教科指導法研修会（小・生活科）に関する課題について

担当講師：大野　歩（山梨大学）

本研修会では、これからの生活科教育において求められる教科指導に関する資質・能力を培うことを目標として、受講者の先生方とともに、日々の生活科の授業を振り返っていきたいと思います。そこで、以下の要領で課題を作成していただき、授業実践の紹介をお願いいたします。

## **【課題】生活科における ｢主体的・対話的で深い学び｣に関連する授業実践の報告**

* 一学期あるいは昨年度に実施した中で、授業者が生活科における「主体的・対話的で深い学び」に向けて工夫した授業の実践報告をお願いします。
* 今年度、生活科の授業を受け持っていない場合は、これまでの実践事例のご報告で結構です。
* 学習内容は問いません。可能な限り「架け橋プログラム」を意識した保幼小接続・教科横断的な取り組みをご報告くださると嬉しいです。

## 【作成要領】

１．学習指導案等

指導案の形式は自由ですが、次ページの様式を参考にしていただいても結構です。配布資料やワークシートがあれば、そちらもご持参ください。

２．授業実践に関する成果と課題

授業実践を行った振り返りを指導案とともにおまとめください。その際、下記の6点を踏まえて記述してくださると嬉しいです。①本授業における子どもの様子（概要）、②授業内において、授業者が印象深いと感じた児童の気づきや経験の内容、学び・育ちの姿のエピソード、③本時における児童の「主体的」「対話的」「深い」学びに対する評価、④本授業内において教師が意識した「主体的」「対話的」「深い学び」への援助のポイント、⑤各教科等の学習との関連性、⑥当該授業における学習内容と、幼児期の終わりまでに育てたい姿（10の姿）とのかかわり

* 上記の課題は13部印刷して、ご持参ください。

## 【当日の予定】

(1) 日 時：2025年 9月24日（水）13：30～16:30（受付 13:15～13:30)

(2) 受 付：山梨大学教育学部 M 号館 1 階 M-12 教室

(3) 研修場所：山梨大学教育学部 LC 号館 2 階 LC-22

(4) 研修内容：受講者による実践発表と研究討議

当日は、先生方に課題をもとに実践報告をしていただきます。ご準備をよろしくお願いいたします。

(5) ご質問等：研修当日までに研修課題へのご質問がございましたら、下記までご連絡ください。

山梨大学教育学部 大野　歩　 [E-mail:onayumi@yamanashi.ac.jp](mailto:syumi@yamanashi.ac.jp)

# 生活科学習指導案

学校名 氏名

１． 日時 年 月 日（ ） 第 校時

２． 対象 年 組 名

３．題材（単元）名

４．題材（単元）設定の理由

題材観・生徒観・指導観等

５．題材（単元）の目標

６．題材（単元）の評価規準

７．題材（単元）の計画

８．本時の目標

９．本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 生徒の学習内容・活動 | 指導上・支援上の留意点・評価 | 備考 |
|  |  |  |  |
| 1. 本授業内における子どもの様子（概要を記述：写真の添付でお示しくださるのを大歓迎） | | | |
| ②授業内において、授業者が印象深いと感じた子どもの気づきや経験の内容、学び・育ちの姿のエピソード | | | |
| ③本時における児童の「主体的」「対話的」「深い」学びに対する評価 | | | |
| ④授業内において、教師が意識した「主体的」「対話的」「深い学び」への援助のポイント | | | |
| ⑤各教科等における学習との関連性： | | | |
| ⑥当該授業における学習内容と、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）とのかかわり（関連すると思われる姿に丸印をつける）   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 健康な心と身体 | 自立心 | 協同性 | 道徳性・規範意識の芽生え | | 社会生活とのかかわり | 思考力の芽生え | 自然との関わり・生命尊重 | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | | 言葉による伝え合い | 豊かな感性と表現 |  |  | | | | |